

## 1 屋敷林（所久喜）八幡神社東側保全地区

- (1) 所在地 久喜市所久喜 150-1 の一部、150-2 の一部、150-3 の一部、151-2
- (2) 面積 2,880 m<sup>2</sup>
- (3) 特色

樹林は、関東平野でみられる一般的な樹種であるケヤキやクスノキ、シラカシなどから構成されていた。植物の確認種数は 127 種であり、限られた空間の中で多くの種が確認された。

鳥類調査では、確認された種は多くはなかったが、水田などの広がる平地の中に取り残されている樹林であることから、鳥類の貴重な生息場となっていると考えられる。また、猛禽類の食痕やフクロウ類の羽がみつかったことから、猛禽類が利用していることがわかった。

昆虫類調査では、埼玉県レッドデータブックにおいて絶滅危惧 IA 類に指定されているアサマイチモンジが確認された。調査地内で同種の食草であるスイカズラが確認されていることから、調査地内で発生している可能性が考えられる。

哺乳類・両生爬虫類調査では、埼玉県レッドデータブックにおいて絶滅危惧 II 類に指定されているヒバカリが確認された。

## 2 八甫の森保全地区

- (1) 所在地 久喜市八甫 1403、1404、1421、1422
- (2) 面積 4,220 m<sup>2</sup>
- (3) 特色

樹林は、関東平野でみられる一般的な樹種であるコナラ、ムクノキ、クヌギなどの落葉広葉樹などから構成されていた。植物の確認種数は 168 種であり、林の中だけでなく、林の縁に日当たりの良い環境があることで環境の多様性が確認できた。

鳥類調査では、秋季調査時にエゾビタキなどの渡り鳥が確認され、調査地がこれら渡り鳥の休憩場所、中継場所として利用されていることが考えられる。また、オオタカやハイタカを調査時に確認したこと、猛禽類の食痕が林内で見ついていることから、周辺環境を含めて猛禽類が利用していることがわかった。

昆虫類調査では、樹林に依存する種としてジャノメチョウ科などを確認した。

哺乳類・両生爬虫類調査で確認された種は多くはなかったが、食痕やモグラ塚などの痕跡を確認された。